

## 7 直木 三十五文学碑

### ■場所

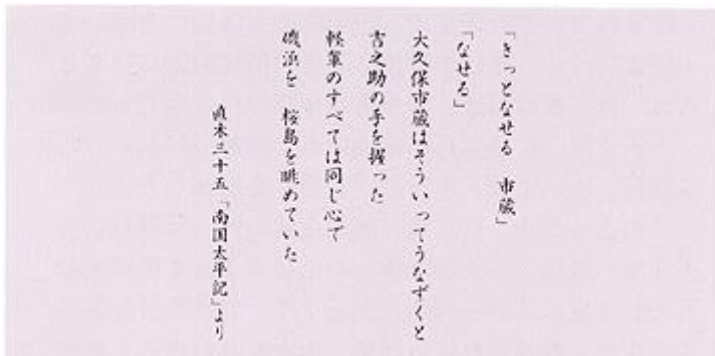
中央区安堂寺町二丁目

榎大明神横

### ■交通

地下鉄:谷町六丁目・松屋町

(5号出口)(5号出口)



### 直木 三十五(1891年～1934年)

直木三十五(本名 植村宗一)は、明治24年(1891年)大阪市南区内安堂寺町通二丁目(現中央区安堂寺町一丁目)に生まれ、昭和9年(1934年)2月24日死去した。

桃園尋常小学校(現桃園小学校)、育英第一高等小学校(昭和12年廃校)、市岡中学校(市岡高等学校)を経て、早稲田大学英文科にすすんだ。

大正11年、31歳のとき、植村の植の字を二字にして直木とし、年齢の三十一を用いて「直木三十一」のペンネームで『時事新報』に執筆。以後、年齢がふえるごとに筆名を改め、三十

四をとばして三十五でとどめた。

大正 12 年、『文芸春秋』の発刊に加わって、毎号辛辣な世相批判、文壇ゴシップ等を発表、初期の『文芸春秋』は直木の記事で売れたと言われた。

同年、関東大震災を期に大阪へもどり、月刊誌『苦楽』に仇討ものを次々と発表。大正 15 年には、江戸川乱歩、長谷川伸らとともに『大衆文芸』の創刊に加わり、新しい大衆文芸の創造を目ざした。

昭和 4 年、「由比根元大殺記」を発表。翌年「南国太平記」を新聞紙上に連載して、大衆文芸に新風を吹き込んだ傑作と評価され、文壇での地位を確立した。

その後「荒木又右衛門」「楠木正成」「足利尊氏」「源久郎義経」などの作品を次々と発表した。長い不遇の中から得た栄光の時は短く、43 歳で死去した。

昭和 10 年、功績をしのび「直木賞」が設けられた。

「南国太平記」は、薩摩藩のお家騒動を素材にした小説で、碑文は、藩主島津斉彬の遺志を継いで、将来に飛躍しようとする市蔵と吉之助、即ち後の大久保利通と西郷隆盛とが決意を述べている場面である。

墓所は、横浜市金沢区富岡東三丁目にある長昌寺。